

定例記者会見資料



○日 時	平成 27 年 7 月 8 日 (水) 13 時 30 分～
○会 場	島根県立大学 本部棟 2 階 特別応接室
○会見者	本田雄一 理事長・学長
○会見項目	<p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の実施について…………… [資料 1] ・豪州・グリフィス大学との交流協定について…………… [資料 2] ・インド・AIMS との交流協定について…………… [資料 3]
○資料提供項目	<p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍の出版について…………… [資料 4] <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人島根県立大学と隠岐の島町との連携協力に関する協定の締結について…………… [資料 5] ・出雲キャンパス看護学部発の健康体操（オロリン体操第 1）完成について…………… [資料 6] <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015 総合文化学科客員教授による講演会の開催について…………… [資料 7] ・平成 27 年度キラキラドリームプロジェクト公開審査会の結果について…………… [資料 8]
○行事予定	<p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度北東アジア地域研究センター市民研究員第 1 回研究会……7 月 11 日 (土) ・第 1 回オープンキャンパス…………… 7 月 18 日 (土) <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回オープンキャンパス…………… 7 月 18 日 (土) <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス…………… 7 月 18 日 (土)

※会見及び資料提供に関する問い合わせは、資料に記載されている担当者あてにお願いします。
 なお、行事予定の問い合わせは、以下のとおり、お願いします。

浜田キャンパス 企画調整室 TEL 0855-24-2201
 出雲キャンパス 管理課 TEL 0853-20-0200
 松江キャンパス 管理課 TEL 0852-26-5525

島根県立大学
 マスコット
 キャラクター
 オロリン



※次回の定例記者会見は 平成 27 年 8 月 7 日 (金) 13:30 から開催予定です。

海外研修の実施について

1 目的

外国語運用能力の向上を図るとともに、研修国の社会・文化・歴史等を理解することにより学生の国際感覚を涵養し、国際人としての自己認識を深化させることを目的として実施するもので、本学カリキュラムの中で重要な科目のひとつです。

2 概要

今年度も、8月の夏季休業期間を中心に、アメリカ、中国、韓国、ロシアの4か国で実施し、語学学習、社会・文化学習、地域市民との交流などに参加します。

（ハワイは春季休業期間中に実施予定）

キャンパス	研修先	所在地	期間 大学発着	参加人数		経費 (H26実績)	奨学金 (H26実績)
				H 2 7 (予定)	H 2 6		
浜田	モントレイ国際大学	米国・カリフォルニア州	8/8～9/7	8	17	70万円	16万円
	ハワイ大学	米国・ハワイ州	2016年2月下旬 ～3月下旬	12	15	50万円	9万円
	北京外国語大学	中国・北京市	8/2～8/30	5	7	20万円	3万円
	蔚山大学校	韓国・蔚山広域市	8/3～8/22	11	17	20万円	3万円
	ロシア海洋国立大学	ロシア・ウラジオストク	8/4～8/27	2	2	23万円	4万円
松江	セントラルワシントン大学	米国・ワシントン州	8/5～8/24	20 ※1	22 ※2	39万円	7万円
出雲	シアトル大学	米国・ワシントン州	8/18～8/28	9	12	41万円	7万円
	ワシントン州立大学	米国・ワシントン州					
	啓明大学校	韓国大邱広域市	8/18～8/23 (予定)	(6)	6	11万円	3万円
	大邱韓医大学校	韓国大邱広域市					
合計				67 (73)	100		

※1 本学からの参加人数は20名。島根大学との国際交流連携により、島根大学から1名の参加あり。

※2 本学からの参加人数は22名。島根大学との国際交流連携により、島根大学から1名の参加あり。

3 その他

◇平成 22 年度から、より多くの学生が参加できるよう、研修に参加する学生全員に研修費用の一部を助成する制度を始めました。

平成 27 年 7 月 8 日
 島根県立大学 浜田キャンパス
 担当：国際交流課 無津呂
 電話：0855-25-9063

豪州・グリフィス大学との交流協定について

【経緯】

- 2014 年 3 月 本学江口真理子教授とマシュー・デイビース非常勤講師がグリフィス大学を訪問し、グリフィス大学教授 Leigh Kirwan 教授（日本語学科）と面談を持つ。
- 2014 年 12 月 グリフィス大学 Kirwan 教授、日本語学科学生 19 人、職員 1 人からなる訪問団が、同教授が毎年行っている日本研修の一環として来学する。
 訪問団は、本学での学生交流のほか、浜田高校での交流、大田市でのホームステイに参加する。
- 2015 年 1 月 帰国後 Kirwan 教授からのメールで、訪問団の中に島根県立大への留学希望者があったこと、島根訪問を毎年のプログラムとしたいことなどから、Letter of Intent 締結の提案が示される。
- 2015 年 4 月 グリフィス大学 Kirwan 教授より Letter of Intent（基本合意書）が提示される。

【概要】

創 立：1971 年（学生の受入れは 1975 年より）

学 生 数：約 43,000 人

学 部 数：10 学部（人文学、商学、教育学、工学・IT、環境・建築、健康、犯罪・法学、音楽、科学・航空、ビジュアルアーツ）で 300 種の学位が授与可能である。

グリフィス大学は、オーストラリアでは 9 番目の大きさを誇る公立大学であり、2013 年の世界大学ランキング(Academic Ranking of World Universities)400 位にランクされている。ブリスベン、ゴールドコースト地区で 5 つのキャンパスを構えている。



ブリスベン



島根県立大学（日本）とグリフィス大学（オーストラリア）との基本合意書

本基本合意書は島根県立大学（日本）とグリフィス大学（オーストラリア）の間で交わされるものである。（個々の当事者を「当事者」とし、当事者を合わせて「両大学」とする。）

1. 両大学は、学術交流、文化交流、共同研究、その他の学術的連携により相互の利益が生まれるものとする。
2. 両大学は以下の分野における協力関係の構築を望むものである。
 - (i) 長期および短期英語プログラム 以下を含むが、以下に限定されない。
 - ・ 一般英語コース
 - ・ 学術英語コース
 - ・ 大学進学コース・大学進学準備コース
 - ・ 英語資格試験対策コース
 - (ii) 研修旅行
 - (iii) 留学プログラム
 - (iv) その他の協力機会（単位付与コースおよび単位を付与しないコース）
3. 個別の協力関係の条件は、事業の開始に先立って、さらに検討を重ね、両大学により書面をもって合意されるものとする。
4. 両大学は、本基本合意書がいかなる法的関係、権利、義務や影響力を生じさせる正式な法的合意書ではないことに同意するものとし、本合意書は、両大学の目的を明確に表明、記録するだけのものであり、道義的な意味においてのみ拘束されるものであることに同意する。
5. 本基本合意書は両大学による署名の日付から開始され、早期に終結されないかぎり、3年間の効力を有するものとする。一方の当事者が6ヶ月の猶予をもって通告することで本合意書を終結させることができる。本基本合意書は協力機関双方の合意によりいつでも修正することが可能である。

署名

.....
Martin Betts
グリフィス大学
大学副総長代行 兼 学長

.....
本田雄一
島根県立大学
学長

.....
日付

.....
日付

【オーストラリア・Griffith 大学】 歓迎会 次第

【日時】平成 27 年 7 月 17 日(金)10:30～11:10

【場所】本部棟2階会議室

※出席者 学長、副学長、江口先生、ケイン先生、ヘネベリー先生、ハリス先生
国際交流課員(予定)

司会:森谷

(日英バイリンガルにて進行)

10:30

1. 大学紹介 DVD (5分)

2. 学長挨拶 (5分)10:35

～ 本田学長 ～ 日本語にて(逐次通訳:森谷)

3. 出席者自己紹介 と 懇談 (20分)10:40

4. 短期日本語・日本文化研修紹介(5分)11:00

5. 記念品贈呈・記念写真 (5分)11:05

6. 閉会 11:10

11:20

① 学生:マニング・ゼミ学生と交流(カフェテリア 2階)

②引率者:協定調印式 11:20-11:50 12:00～ マニング・ゼミ合流

12:30 昼食 (カフェテリア 2階)

【オーストラリア・Griffith 大学】 調印式 次第

【日時】平成 27 年 7 月 17 日(金)11:20～11:50

【場所】本部棟2階 特別応接室

※出席者 学長、副学長、副理事長、江口先生、ケイン先生
国際交流課員(予定)

司 会:無津呂
(日本語にて進行)

11:20

1. 開式の辞
2. 出席者紹介 (5分)
3. 県立大学あいさつ (5分)
4. グリフィス大学あいさつ (5分)
5. 協定内容説明 (5分)
6. 調印 (5分)
7. 懇談 (5分)
8. 閉式の辞

インド・AIMSとの交流協定について

- ・2012年3月 H23年度海外企業研修(インドコース)の研修コーディネーター河込氏の紹介により、学生15名が訪問し交流
- ・2013年3月 H24年度と同研修の参加学生23名が訪問し交流
来学について打診があったが、話が進まなかった。
- ・2014年2月 H25年度と同研修の参加学生15名が訪問し交流
共同研究の実施、日本の企業訪問、学生のインターンシップ受入先について協力を求められる。まずは10月に来学いただくことを約束。
- ・2014年9月 H26年度と同研修の参加学生10名が訪問し交流
11月 来学が決定
- ・2015年7月 包括協定締結



AIMS

(Acharya Institute of Management and Sciences)

創立年：1994年

学生数：約2,000人

学部数：5学部（ビジネス、商業、情報技術、サービス・観光、芸術・人文科学）

AIMSは、バンガロールの工業地帯ピーニャ(Peenya)にある。経営学、IT、ホテル・観光関連の学位が取得できる教育機関として、1994年に非営利、慈善組織の下に創立された。ビジネス管理の学士号(BBM)や、準修士号(PGDM)、経営学修士課程のMBAのコースを提供しており、学生たちに多彩なインターンシップの機会を提供している。インド大手のビジネス誌のビジネススクール部門のランキングで上位を獲得している。

AIMSが位置するバンガロールは、インドのハイテク産業の中心地であり、ガーデンシティと呼ばれるほど自然環境にも恵まれたインド南部カルナータカ州の州都である。標高920mの高原にあり、1年を通して穏やかな気候にある。

【住所】 1st cross, 1st stage, Peenya, Bangalore 560 058, INDIA.

【電話】 +91 80 2837 6430 / 2839 0433 / 4117 9588 / 4125 3496 / 2839 0434

【ホームページ】 <http://theaims.ac.in/index.html>

島根県立大学とアチャリヤ経営科学大学との国際交流に関する覚書

島根県立大学（日本）とアチャリヤ経営科学大学（インド）とは相互利益の原則に基づき、国際交流プログラムにおいて協力することをここに同意する。

本覚書は、教員、研究者、学生の交流や学術情報等の交換が、両大学の研究・教育を高め、そして、各教員、研究者、学生間の相互理解を高めるものであると信じて、これを奨励するものである。

1. 両大学はそれぞれの学術的、教育的ニーズに基づいた次の交流活動を推進することに同意する。
 - a. 教員、研究者の交換（教授、准教授、助教、または、研究員）
 - b. 学生の交換（海外研修のための学部生、大学院生を含む）
 - c. 学術情報、資料の交換
 - d. 学術定期刊行物の交換
 - e. 共同教育プログラムの組織化
 - f. 共同研究プログラムの組織化
 - g. 共催会議の組織
 - h. ビデオ会議システムを用いたプロジェクトでの交流
 - i. その他両大学が同意する学術交換
2. 本覚書をもとにした具体的な交流の実施は両大学により個別に協議し、決定されるものとする。各交流プログラムの実現のための資金源を見つける努力が両者によりなされなければならない。
3. 何事もそれぞれの機関の自立性を縮小させることはなく、また、本覚書を実現させるために一方から他方へ制限や、金銭的負担を課すことはない。
4. 本覚書が両言語で調印された場合、両文書が同等の効力を持つものとする。
5. 本覚書は5年間有効とし、両者の同意により改訂、変更の対象となる。いつでも一方の当事者により本覚書を終結することができることを共通理解とする。しかし、そのような行為は、すべての参加者に対して想定される不都合を生じさせないために、相互の協議ののちに行われるものとする。本覚書は以下の最新の署名の日をもって、効力を有するものとする。

For アチャリヤ経営科学大学

For 島根県立大学

CEO 兼学長, Dr. Kiran Reddy,

学長, 本田雄一 博士

日付

日付

立会人 :

立会人 :

平成 27 年 7 月 8 日

島根県立大学 浜田キャンパス

担当：1：企画調整室（齋藤(伸)）

2：国際交流課（無津呂）

書籍の出版について

今月、本学の学術的な成果である書籍が 2 冊出版されますので、ご報告いたします。

1. 「北東アジアと朝鮮半島研究」 福原裕二著

北東アジア学創成シリーズの第 2 巻となります。当シリーズは、本学が目指す「北東アジア学」創成の試みの一環として、一般の方でも読める北東アジア地域に関する解説本叢書として企画されました。以降、7 巻まで 刊行予定です。

2. 「北東アジアの地域交流 -古代から現代、そして未来へ」 飯田泰三編

2013 年 11 月 14 日島根県立大学でおこなわれた「島根国際学術シンポジウム 2013 北東アジアの地域交流—古代から現代、そして未来へ—」を単行本化したものです。

以上

近刊

(2015年7月刊行予定)

北東アジア学創成シリーズ第2巻

北東アジアと 朝鮮半島研究

福原裕二 著

A5判 272頁 4,600円+税 ISBN978-4-87791-270-3 C3031 ¥4600E

グローバル化した世界状況にあって普遍性を追究する立場から、「朝鮮半島問題」としての韓国・北朝鮮における秩序構想・統一・民族主義を論じ、竹島／独島問題を通して課題解決への展望を模索する。

北東アジア学叢書刊行予定

- | | | |
|------|-----|-------------------------------------|
| 既刊 | 第1巻 | 宇野重昭『北東アジア学への道』 |
| 7月刊行 | 第2巻 | 福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』 |
| 以下続刊 | 第3巻 | 林 裕明『ロシアにおける経済システム
転換と北東アジア (仮)』 |
| | 第4巻 | 井上 治『世界とモンゴル(仮)』 |
| | 第5巻 | 李 曉東『「中国」という課題 (仮)』 |
| | 第6巻 | 江口伸吾『現代中国の国家と社会 (仮)』 |
| | 第7巻 | 飯田泰三『北東アジアの中の日本思想史(仮)』 |

北東アジア学創成シリーズ

第2巻

北東アジアと 朝鮮半島研究

福原裕二

国際書院

近刊

(2015年7月刊行予定)

北東アジアの地域交流

—古代から現代、そして未来へ—

飯田泰三 編

A5判 304頁 3,800円+税 ISBN978-4-87791-268-0 C3031 ¥3800E

第1部 古代神話の世界と北東アジア交流

- 1 記紀神話をどう読むか—神話と歴史 天照・大物主・倭大国魂の伝承をめぐる
- 2 記紀神話における出雲神話の位置
- 3 東アジアから見た古事記の因幡の白兔説話
- 4 古代中国人の日本認識

第2部 鎖国時代の北東アジア交流

- 5 石見への朝鮮漂流民について
- 6 中国漂着日本人への取り扱いに見る清朝時代の日中関係
- 7 露日関係史から—ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所の史料に基づいて

第3部 北東アジアの接壤地域の歴史と現状

- 8 モンゴルから見た北東アジア接壤地域
- 9 図們江北岸地域の朝鮮系住民社会と日本
- 10 高麗時代のモンゴルと濟州の交流—それが今日濟州社会に持つ意味

第4部 現代～未来のアジア太平洋交流

- 11 極東ロシアの交通インフラ整備と官民連携
- 12 中小企業の北東アジア戦略
- 13 北東アジア地域の地域統合過程
- 14 北東アジアにおける安全保障上の懸念と経済発展政策の相互作用

2013年11月14日島根県立大学でおこなわれた「島根国際学術シンポジウム2013 北東アジアの地域交流—古代から現代、そして未来へ—」を単行本化したものである。

北東アジアの地域交流

古代から現代、そして未来へ



飯田泰三 編

国際書院

島根県立大学出雲キャンパス
管理課 宇原
〒693-8550 出雲市西林木町151
(TEL)0853-20-0200 (FAX)0853-20-0201

公立大学法人島根県立大学と隠岐の島町との連携協力に関する協定の締結について

1 目的

隠岐の島町と公立大学法人島根県立大学とが人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的として、連携協力に関する協定の締結を行います。

つきましては、本学理事長と隠岐の島町長による調印式を行います。

2 日時・期間

平成27年7月14日（木） 15:00～15:40

3 場所・会場

出雲市西林木町151 島根県立大学出雲キャンパス 大会議室

4 主な内容

- ①島根県立大学理事長あいさつ
- ②隠岐の島町長あいさつ
- ③協定内容説明
- ④調印
- ⑤質問受付

5 出席者

隠岐の島町 町長 松田 和久

公立大学法人島根県立大学 理事長 本田 雄一 ほか

6 その他

今回の協定締結を踏まえ、9月に隠岐の島町にてタウンミーティングを開催予定です。タウンミーティングは、隠岐の島町、隠岐病院等の連携による地域医療のあり方を、県、町、病院、高校等の関係者が一堂に会して、話し合っていく機会を提供し、具体的な成果に結びつける契機としたいと考えています。

(大学 保管分)

公立大学法人島根県立大学と隠岐の島町との連携協力に関する協定書

(隠岐の島町 保管分)

隠岐の島町と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、隠岐の島町と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成27年 月 日

隠岐の島町
隠岐の島町長

公立大学法人島根県立大学
理事長

平成 27 年 7 月 8 日
島根県立大学 出雲キャンパス
担当：看護学部 石橋鮎美
電話：0853-20-0200（代）

出雲キャンパス看護学部発の健康体操（オロリン体操第 1）完成について

1. 概要

島根県立大学出雲キャンパスは、地域に根ざした大学としてこれまで数多くの地域貢献活動を行ってきました。この度、幅広い年代層が同じ活動を通して行える健康体操（通称オロリン体操）を考案することにしました。

ダンスの要素を取り入れたオロリン体操第 1 が完成したのでお知らせ致します。なお、ゆったりとした音頭バージョンであるオロリン体操第 2 も作成予定です。また、健康づくりに、オロリン体操第 1 に取り組んで下さる企業・団体を募集しています。

2. オロリン体操第 1 の PR ポイント

（1）島根県民のニーズに応じた体操

体操の構成は、島根県民を対象に実施したニーズ調査の結果を反映し、肩こり予防・腰痛予防・筋力向上・ひざ痛予防の要素を含むよう工夫しました。振り付けは身体教育医学研究所うなん研究員である北湯口純氏が考案し、出雲キャンパスダンスサークルの学生の意見も取り入れ、オロリン体操第 1 が完成しました。

（2）本学ダンスサークルが踊るアップテンポで軽快な体操画像

作曲は地元で活躍中の長田トシツグ氏に依頼しました。気分転換につながるような楽しくアップテンポなダンスミュージックとなっています。出雲キャンパスダンスサークルが楽しく踊る体操画像を YouTube で公開しています。

（3）親しみが持てる体操

出雲キャンパス関係者から募集したフレーズを元に長田氏が作詞を手がけました。島根県の特徴を意識し、県民が親しみやすい歌詞になっています。また、オロリンをイメージしたかわいらしい言葉や動きを取り入れ、体操の名称をオロリン体操としました。大学祭でのダンスサークルによる体操披露では、子供から大人まで楽しく踊りました。一度聞いただけで皆さん、思わず口ずさんでいました。



出雲キャンパス大学祭
体操披露の様子



公立大学法人島根県立大学
マスコットキャラクター
オロリン



https://www.youtube.com/watch?v=PXM84tIXB_M

平成 27 年 7 月 8 日
島根県立大学（松江キャンパス）総合文化学科
担当者：岩田 英作
電 話：0852-26-5525

2015 総合文化学科客員教授による講演会の開催について

平成 27 年度総合文化学科客員教授田中瑩一先生による公開講演会を開催します。

1. 日時・期間

平成 27 年 7 月 15 日（水）10:40～12:10

2. 場所・会場

島根県立大学短期大学部松江キャンパス大講義室

3. 主催者

島根県立大学短期大学部松江キャンパス総合文化学科

4. 内容

別添パンフレットのとおり

5. 参加方法・参加費・予算

入場無料、事前申込は不要です。



2015 島根県立大学松江キャンパス 総合文化学科講演会

たうえばやし

たうえぞうし

田植囃子と田植草紙

田中瑩一

中国地方各地に伝承される「田植囃子」（広島県の世界遺産「壬生の花田植」は特に著名）について、国文学（日本文学）研究の手法を手がかりに研究的・共感的に考察してきた私の経験を語ることを通して、伝承文化研究のイメージ形成をはかりたい。

【講師紹介】

田中瑩一（たなか えいいち）

1934年、島根県生まれ。

島根大学名誉教授。

島根県立大学客員教授。

専門は国語教育、民話・田植歌研究。

著書に

『ふるさとの田植歌』（1969）

『田植歌本集』（1974）

『奥出雲昔話集』（1980）

『口承文芸の表現研究—昔話と田植歌—』

（2005）

『伝承怪異譚』（2010）などがある。



日時：2015年7月15日（水）10：40～12：10

場所：島根県立大学松江キャンパス大講義室

松江市浜乃木7丁目24-2

事前申し込み不要・入場無料・駐車場あります

問合せ：0852-26-5525（総合文化学科 岩田）

平成 27 年 7 月 8 日
 島根県立大学短期大学部松江キャンパス
 担当：教務学生課 的場・雪吹
 電話：0852-20-0216
 FAX：0852-21-8150

平成 27 年度キラキラドリームプロジェクト公開審査会の結果について

平成 27 年度キラキラドリームプロジェクト公開審査会を 7 月 1 日に実施した。4 組の団体がエントリーし、書類とプレゼンテーション審査の結果、4 組の事業が採択された。今後、採択団体は自ら企画した夢の実現に向けて活動を開始する。各団体はブログや Facebook 等を開設し、活動の進捗を公開してゆく。

● 採択事業

- ✓ ドリーム枠 (20 万円) 1 団体
 - ◇ **団体名：ゴーストみやげ研究所**
 企画名：「ゴーストみやげ第 2 弾～第 3 弾」
 小泉八雲にちなんだお土産開発
- ✓ キラキラ枠 (10 万円) 3 団体
 - ◇ **団体名：革命短大生**
 企画名：「松江国際ライフサポートプロジェクト」
 国際×防災×松江 ～外国人も住みやすい町づくり
 - ◇ **団体名：しまね三味食品科学研究所**
 企画名：「ジビエ活用大作戦」
 ジビエの美味しい魅力を再発見！
 - ◇ **団体名：松江市感幸隊 (まつえしかんこうたい)**
 企画名：「SHINY☆PROJECT」
 松江の夜の観光振興！～光を使った演出を企画

(参考) キラキラドリームプロジェクトとは

- 平成 25 年度から始まり、学生が自主的に企画する独創的で魅力的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助し、夢の実現を支援する事業。
- 審査方法：1 組あたり 10 分間の持ち時間で、自らのプロジェクトをプレゼンテーションする。5 人の審査委員により本プロジェクトの主旨・目的にあった提案を採択。
- 事業スケジュール
 - ・募集説明会 【① 5 月 20 日 (水) ② 5 月 21 日 (木)】
 - ・企画勉強会 【5 月 27 日 (水)】
 - ・公開審査会 【7 月 1 日 (水)】
 - ・採択者向けオリエンテーション・プロジェクト活動開始【7 月中旬】
 - ・報告書提出 【1 月末日】
 - ・最終報告会 【2 月以降】

- キラキラドリームプロジェクトホームページ

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/campus/kirakiradream/>

● 公開審査会（7/1）の様子

プレゼンの様子



審査委員からの質疑応答



参加者記念撮影

